

チャンス・チャレンジ・チェンジ



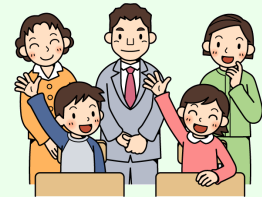
秋田県立支援学校天王みどり学園 加賀谷 勝

保護者の子ども理解を促すポイント

「支援をしたいが保護者が望んでいないで前に進めない」「保護者に子どもの実態を知ってもらうためにはどうしたらよいか」、「保護者に専門機関を勧めたいが言い出せない」・・・、保護者に子どものことをどう伝え、理解してもらうかは、大きな課題の一つである。

【保護者のタイプ】

- ①わが子の状態に気付いていない。
- ②変だと感じているが、楽観的に捉えている。(父親に多い)
- ③変だと感じているが、認めたくない。
- ④原因がほかにあると考え、誰にも相談できず一人で悩み続ける。
- ⑤「わが子には障害がある」と決め付けている。
- ⑥すでに障害を受け入れ、専門機関と連携している。



このほかに、父親と母親の間で、あるいは、両親と祖父母の間で認識がずれている場合もある。発達障害のように分かりにくい障害は受容するまで時間がかかる。また、保護者にも発達障害が疑われる場合は、気付けないことも予想される。

【保護者に伝える前にすべきこと】

- ①普段の子どもの様子を知ってもらうために、保護者を行事やフリー参観日に誘ったり、子どもの作品等を教室や廊下に掲示したりする。
- ②子どもの様子を把握した上で、個別の支援を始める。外部の専門機関に相談したり、連携した支援を行ったりする。
- ③期間を向けて、子どもの変容を確認した上、気になることを保護者に伝える必然性があるかどうか、園・校内委員会で共通理解を図る。
- ④保護者に伝える場合は、誰が、何を、どのように伝え、伝えた後の支援内容も明確にする。



【保護者に伝えるポイント】

- ①子どものありのままの姿が分かるように、作品、テスト、ノート、具体的なエピソードを紹介する。
- ②保護者に尋ねる姿勢を大切にする。家庭での様子のほかに、小さい頃の話聞くことで、子どもの実態が見えたり、保護者が困り感を話したりすることもある。
- ②個別の指導計画を基に、園や学校、家庭でできることを実践し、期間を設けて評価する。関係機関につなぐ場合は、困っているのは子どもであることを伝え、「念のために」という言葉を忘れない。
- ③子どもは活動する場所・内容・人によって状態像が違うので、理解に差が生じる。その差を埋めるために、保護者と信頼関係を築きながら相談を繰り返していく。

保護者と考え方が違うのが当たり前であり、違うことを共通理解することがスタートになる。そのとき保護者が理解しなくても、「そういえば以前に言われたことがある」という経験が、子ども理解を促すので、関係者が情報を共有できる体制と、障害に気づき、それをオープンにできる社会の実現が急務である。

あなたが思っているより、あなたはずっとキレイだよ!

あなたが見たあなた

他の人が見たあなた



Dove

#wearebeauty.jp

「自己評価による自分の顔」より「他人の目に映る自分の顔」の方が圧倒的に明るくきれいに完成したという動画が話題になっている。人は自分のことを過小評価する傾向にある。本人にとっては短所でも、他の人にはあまり気にならなかつたり、逆に長所に見えたりすることもある。

自分の長所も短所もひっきりめて、自分を肯定的・多面的に捉え、自分を好きになることが大切である。自尊感情が高いほど、対人関係がよくなるというデータもある。「あなたは自分ことが好きですか？」